



子ども大学よこはま
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

2016 年度 第 5 回授業の報告

日時 2016 年 11 月 13 日 (日) 13:00~15:00/場所 横浜商科大学鶴見キャンパス

11 月 13 日「子ども大学よこはま」の第 5 回目の授業を横浜商科大学鶴見キャンパスにて開催しました。出席した“学生”は、全部で 46 人でした。学年別内訳は、6 年が 9 人、5 年が 18 人、4 年が 19 人です。

プログラム

<第 5 回授業>

「バザールゲーム in 横浜商科大学」

講師：よこはましょうかだいがく横浜商科大学商学部観光マネジメント学科の先生方

佐々 徹 (さっさ とおる) 先生 (商学部教授)

秋山 友志 (あきやま ともゆき) 先生 (商学部特任講師)

田尻 慎太郎 (たじり しんたろう) 先生 (商学部准教授)



横浜商科大学の先生方と
学生の皆さん。

楽しい授業を
ありがとうございました。

☆横浜商科大学の先生方のご紹介 <http://www.shodai.ac.jp/>

佐々 徹 先生 研究分野：経営学

秋山 友志 先生 研究分野：地域観光、観光まちづくり、フェアツーリズム、ひとり旅など

田尻 慎太郎 先生 研究分野：公共政策、公共選択論、教育改革

横浜商科大学では、
大学の敷地を
地域に開放して、
キャンパスバザールが
行われています。



商品は、パティシエの桜井さんが作った「しあわせブッセ」
です。(緑区霧が丘「ケーキショップそら」)

授業後のアンケートから

“学生”のアンケート回答から

4年生19名、5年生18名、6年生が9名の計46名、出席者全員が回答してくれました。

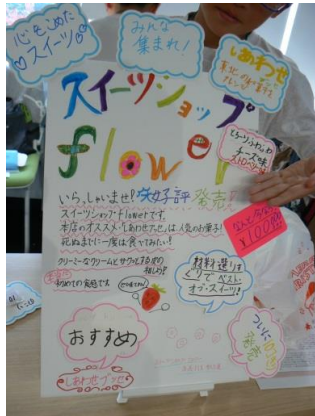
1. いちばん心に残ったことや面白かったことは？

バザーゲームと回答した学生が多く、お店の看板やPOP作り、本物のお菓子を売るという体験型授業が印象的だったようです。



○4年生の回答

- ・バザールゲーム（9）／お店を開くのは大変だった（2）／お金の代わりに貝殻を使っていたこと
- ・店長になってお店のいいところをいっぱい見つけられたこと／クイズ
- ・買う店を決めるときにいろんな引き寄せ方をしていたのすごかった／看板を書くこと
- ・接客や看板をはなやかにしたらお客が来るのが分かった
- ・松下幸之助が商売のことでも名言を残していたこと／商売は感動を与えるということ



○5年生の回答

- ・バザールゲーム（8）／POPなどを作ったこと（3）／商売は難しく、甘くないこと（3）
- ・看板や買ってもらうためにした工夫／どうしたら、売れるかということ
- ・チームのメンバーと仲よかったこと

○6年生の回答

- ・バザールゲーム（6）／バザールゲームで呼び込みをしたこと
- ・声がかかるまで叫び続けて17個売ったこと／人の印象は7秒で分かってしまうこと
- ・物の売り方／桜井さんのメッセージおよびゲーム
- ・お土産のブッセありがとうございました。おいしく食べさせていただきました

2. 新しく気づいたことはありましたか？

全体では65.2%の学生が新しく気づいたことがあったと回答しています。

学年別では、4年生が78.9%、5年生が44.4%、6年生が77.8%。

○4年生の回答

- ・横浜には十日に一日市場があったこと／バザールゲームがあること（2）
- ・お店がこんなに楽しいこと／自分が想像したことよりも上のことをしないと商売ができないこと
- ・売れる時と売れない時があること／店は決めた方がいいこと／売る人はすごく工夫をしてがんばっているということ／接客が商人の命だということ／お客を引き寄せるのは大変だということ
- ・お店を開いて、売るまでにどれだけ時間がかかり、どれだけ大変かということ
- ・7秒でいいか、よくないか分かること／バザールが市場ということ
- ・お店は工夫すれば売れること／看板や物を工夫しないと売れないこと

○5年生の回答

- ・商売は難しいということ（3）／お店のPOPには色々な思いが書いてあること
- ・時には強引に行かなければならないこと／表情などが商売では重要なこと
- ・お客様を呼ぶには工夫が必要だということ

○6年生の回答

- ・商売、売るとは大変だということ（3）／商売が工夫するほど、努力するほど結果が残るということ
- ・人を呼び込むことの難しさ／商売は大声が命だということ（心理も大切）
- ・看板などを派手にしすぎても駄目だったが、人が集まってくると思った

3. ゲームをして難しいと感じたことはありますか？ どのところが難しかったですか？

全体で41.3%の学生がゲームをしてみても難しいところがあったと回答し、学年別には4年生の31.6%、5年生の50%、6年生の44.4%があったと回答。

○4年生の回答

- ・お客の呼び込み（2）／声掛けや笑顔／接客／売るためにする工夫

○5年生の回答

- ・声かけや人を呼び込むこと（4）／ちょっとした工夫に気づくかどうか
- ・がんばっても人が来なかったこと／客があまり来なかったこと／たくさん売ること
- ・お客様への対応／全然売れなかった／看板や店の名前、POPをどう描くかということ
- ・いろいろと難しかった

○6年生の回答

- ・客があまり来なかったこと（2）／ちょっとした工夫に気づくかどうか／人を呼び込むこと
- ・利益の知らせ方（あまり暑苦しいと客が減るし、うすいと売れていないとかんちがい）

4. 自分でモノを売ってみたいと思いますか？

過半数以上の78.3%の学生が自分でお店でモノを売ってみたいと回答し、学年別には4年生が84.2%、5年生が72.2%、6年生が77.8%がモノを売ってみたいと回答しています。

保護者のアンケート回答から※今回会場スペースの都合で、保護者の皆様には別室でお待ちいただきました。

32名の保護者がアンケートを提出してくださいました。

1. 授業の趣旨がお子様に伝わったと思いますか？

全体では「大いに伝わった」34.4%、「だいたい伝わった」53.1%で両方を合わせると87.5%となり、約9割の保護者は伝わったと思っています。

2. お店や店の人の工夫に興味をもつと思いますか？

全体では「大いに持つと思う」40.6%、「たぶん持つと思う」50.0%と9割以上の保護者は興味を持つと思うと回答しています。



1. 会場の満足度

大いに満足度を5点、ほぼ満足度を4点、どちらとも言えない3点、やや不満2点、かなり不満1点として満足度を見てみると、全体では3.9点となり、若干満足度は低くなっています。

なお、満足できなかった理由として「最寄り駅が遠い」との声がありました。

2. 授業の満足度

大いに満足度を5点、ほぼ満足度を4点、どちらとも言えない3点、やや不満2点、かなり不満1点として満足度を見てみると、全体で4.5点で、4年生の保護者の満足度が最も高くなっています。

○満足の理由

実際のお菓子を使った体験型授業に笑顔や大きな声で取り組む子ども達を見て、満足度が高かったといえます。

- ・グループによるバザールゲームの体験型講義で子どもが楽しく学べた（13）
- ・お店の名前からPOPまで自分たちで考えた／グループで工夫をしたところ
- ・自分でやって仕組みを知ること・買い物の動機づけをうまく感じさせられたと思う
- ・物を一つ売るにもアイデアが必要ということを学べた
- ・本物のお菓子を使って販売するのは本格的で良かった
- ・経済の仕組みについて興味を持つきっかけになったと思う
- ・大型店の買い物が多くなっているが、小規模小売店にも目を向けるきっかけになると期待
- ・学年も違い、今日初めて知り合った友達と楽しそうに作業していた／子ども達の表情が明るくよかった
- ・体験を通して、お店側の立場、考え、工夫することにより一層興味の幅が広がったと思う。

その他意見

- ・買い物する際に会話をしみつつ、今日の学びの引き出しをたくさん開けてやりたい
- ・物づくりや子ども達だけで工作する場合、文字の説明だけではなく、出来上がりのイラストや説明があった方が子どもたちにもイメージが付きやすい

- ・子どもたちが何も教えずに「アメ横商法」を行っていたのはびっくりした
- ・子どもの興味のない分野のためか、積極的に取り組んでいこう、という感じではなかったなので、何事にも積極的に取り組んで欲しい
- ・グループ分けに学年や性別の平均があるとさらに良かった



スタッフミーティングから

経済の授業も取り入れたいね、と計画した今回の授業。小学生には抽象的で難しくなりがちな分野で、ご相談したのが横浜商科大学の先生方でした。学生の皆さんと念入りにご準備くださり本当にありがとうございました。ほぼ初対面の子どもたちが、グループ作業でこんなに熱く活動するとは、正直思わなかったの、子どもたちの力にスタッフもびっくりでした。買い物の時、作り手やお店の人の思いに気づいてくれたらうれしいです。

☆ミーティングは、保護者の方、活動に参加してみたい方も参加OKです。

日程は、基本的に土曜日の午後 13:30～、桜木町・横浜市市民活動支援センター（4階または5階）で行っています。日程が変更になることもございますので、事前にご連絡ください。



早く来場してキャンパスバザールを楽しむ子どもたちのために、地域の事業者様がお弁当を用意してくださいました。

今年度も、授業の感想文を募集します！

学生の皆さんは授業を通して、どんなことを学び、考えたでしょうか？

- ・心に残った授業やおもしろかった授業の感想
- ・1年間を通して自分で考えたこと
- ・自分でさらに調べたこと
- ・授業について友だちや家族と話したこと

など、感想文にしてまとめてください。まとめた感想文集は学生の皆さんにお渡します。

<文字数>400 字詰め原稿用紙 1 枚程度（B4 サイズ、たて書き、紙は横長）鉛筆で濃く書いてね。

<締切> 1 月 31 日までに事務局に郵送してください。



子ども大学よこはま
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

特定非営利活動法人子ども大学よこはま 〒226-0027 横浜市緑区長津田 1-22-2-38

電話 090-3903-6875 EMAIL inform@kodomodaigaku-yokohama.com

<http://www.kodomodaigaku-yokohama.com/>

<https://www.facebook.com/kodomodaigakuyokohama>